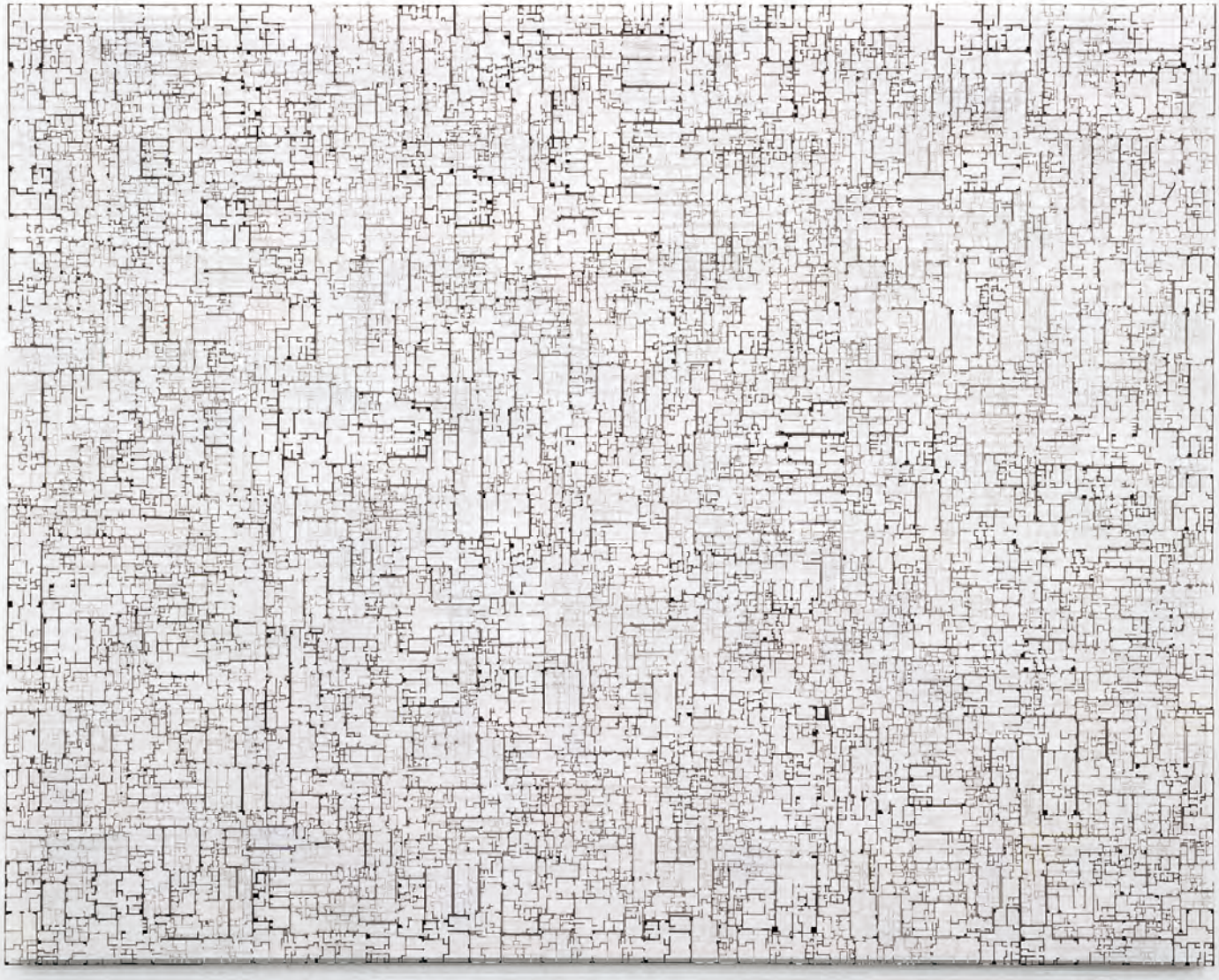
白い部屋

山本聖子



solid drawing of emptiness

2011　200㎝×250㎝×9.5㎝
物件広告の間取り図、ラミネート、アクリル、木製パネル
撮影：上野則宏

白いシロ

白は古来より日本に存在し、万葉集で最も多く歌われるなど私たちの暮らしや文化などにおいて、様々な意味・役割を果たしてきた色である。しかし、その語源や由来においては、色彩というよりも【明るくはっきりとした様】といった明度を表すとともに、【顕（けん）】や【素（す）】といった『何も手を加えていない状態』を示す語としても使われていた。

現在、私たちが用いている色彩としての「白」は、素としての「シロ」の意が時間とともに変化し、一般的な色名として用いられるようになったものであるが、「シロ」が『そのものが本来持っている性質や状態』であるのに対し、「白」は『何らかの手を施されることで白色が与えられている』ものである。つまり、このふたつは同じ読みでありながら、その意味においては正反対である。

古来、日本にあったのは八百万神に代表されるような「シロ」への信仰であった。それを表現するために、便宜上「白」が手段として使われていたように、私には思えるのである。それが、今では様々な要因により「白」の持つ意味や機能だけが独り歩きしているのではないだろうか。

現在において「白」は純粋・清潔・平和といった、あたかもポジティブなイメージとして使われることが多い。私たちの生活の中でも、スーパーに並ぶ食品のパックや様々なインテリア商品などにも多く使われ、またそれらのシンプルで機能的というイメージとも重なり、消費者の意識にも多大な影響を与えているように思う。しかし一方で、色彩としての「白」は、自身を保持するために他の色を排除しなければならないという排他性を含んでいる。そのことはもっと認識されてもよいのではないだろうか。

私が幼少より育ったのは 1970 年の大阪万博に前後して建設された千里ニュータウンだ。あらゆるものが完備され人々が何不自由なく生活できるいわば当時の理想都市でありながら、そこで感じていた空気は、なぜか漂白されたように「白」く、それによって私の身体や感覚はいつもどこか不自由だった。

今展では、『「白」に覆われた「シロ」』に焦点をあてることで、常々感じてきた私の身体とその周囲にある社会の間に生じている違和感を表現する。

山本聖子

Gallery PARC
GRAND MARBLE

Press Release:2019.5.5

白いシロ

山本聖子

5.24Fri._6.9Sun.

Gallery PARC［グランマーブル ギャラリー・パルク］では2019年5月24日（金）から6月9日（日）まで、山本聖子による個展「白いシロ」を開催いたします。

2004年に大阪芸術大学芸術学部美術学科立体コースを卒業、2006年に京都造形芸術大学大学院芸術研究科芸術表現専攻を修了した山本聖子（やまもと・せいこ／1981年京都生まれ）は、おもに彫刻・インスタレーション作品を中心とした展開により多くの個展に取り組むとともに、2011年に『六甲ミーツ・アート芸術散歩2011公募大賞』受賞、同年に『Tokyo Midtown Award 2011アートコンペグランプリ』受賞などの評価を得ています。

ニュータウンで生まれ育った山本は、画一的にデザインされた都市空間を『からっぽ』と感じ、その中にあって不確かに揺らぐ自らの身体との違和感、その不安や疑問に端を発したかのような作品を制作してきました。
不動産チラシの物件間取りを切り抜き、ラミネートした後に再度切り抜いたピースを無数に接続し、圧倒的なサイズの面へと展開した山本の代表作品とも言える『間取り図』のシリーズは、無数の「画一」が集合した地平に、有機的で混沌とした美しさが「在る」ことを「探し・求めた」ものであるといえ、山本にとっての都市と身体との不整合を眼差すための切実なものであったといえます。

その後、2013～14年にメキシコでのレジデンスなどを経験する中で山本は『“からっぽ”の色』というテーマを見つけます。
これは国や文化などの背景の異なる多くの人と関わる中で、色彩や色を巡る思考に違和感を覚えていた山本が、自身が「“からっぽ”をなぜか“白”とイメージしていた」ことに気づき、もしかするとその前提の違いが、「今」への眼差しにおいても大きな違いを生んでいるのではないか？との疑問によるものでした。
「あなたにとって“からっぽ”という言葉を聞いたときに思い浮かべる色は何色ですか？」という質問を様々な人々に行なった映像作品《“からっぽ”の色》では、返答として示された色には、人々の無意識の中に現れる多様性が何によるものなのかを伺い知ることができるものでした。

これらの経験・制作・思考を経て、山本は本展において「白：シロ」に焦点を充てています。
自身がなぜあたりまえのように「からっぽ＝白」としていたのか。ではこの「白」とは何か。
ここに眼差しを向けることで、色彩としての「白」はかつて状態としての「シロ」として『何も手を加えていない状態』を指していたことや、意味において異なる「白」と「シロ」がどのように混同され、現在においてどのように用いられ・認識されているのかなどを見据え、思考を巡らせた山本は、それらが自身がニュータウンで抱いていた違和感の理由に接続するのではないか、との考えに至り、本展ではそうした思考を検証し、進めるための機会として取り組みます。

また、そのひとつとして、会期中の6月1日（土）にはトークセッション「気配の色 ― 私たちの社会はなに色か。」を開催します。
写真家であり多摩美術大学情報デザイン学科教授のほか、あいちトリエンナーレ2016の芸術監督など、国際展の企画やキュレーションも多く手がける港千尋（みなと・ちひろ）氏と、文筆家・編集者・色彩研究者・ソフトウェアプランナーなど、フィールドやメディアを横断して活動する三木学（みき・まなぶ）氏をお招きし、山本聖子とのトークセッションにより、色を巡る思考や歴史を手がかりに、現在の私たちの社会と色との関わりなどについてトークします。

PARCでは2012年「円の手ざわりはつるつるかざらざらか」、2015年「白い暴力と極彩色の闇」、2016年「色を漕ぐ-Swimming in Colors-」に続く4回目の個展となる本展は、山本の近年の取り組みにおける一連の問題意識の姿とともに、これまでの制作・活動に通底する主題の姿もまた明らかとなる機会となるかもしれません。

“からっぽ”の色
2014～
映像
2014年から継続して行っている街頭でのインタビュープロジェクトとワークショッププロジェクト

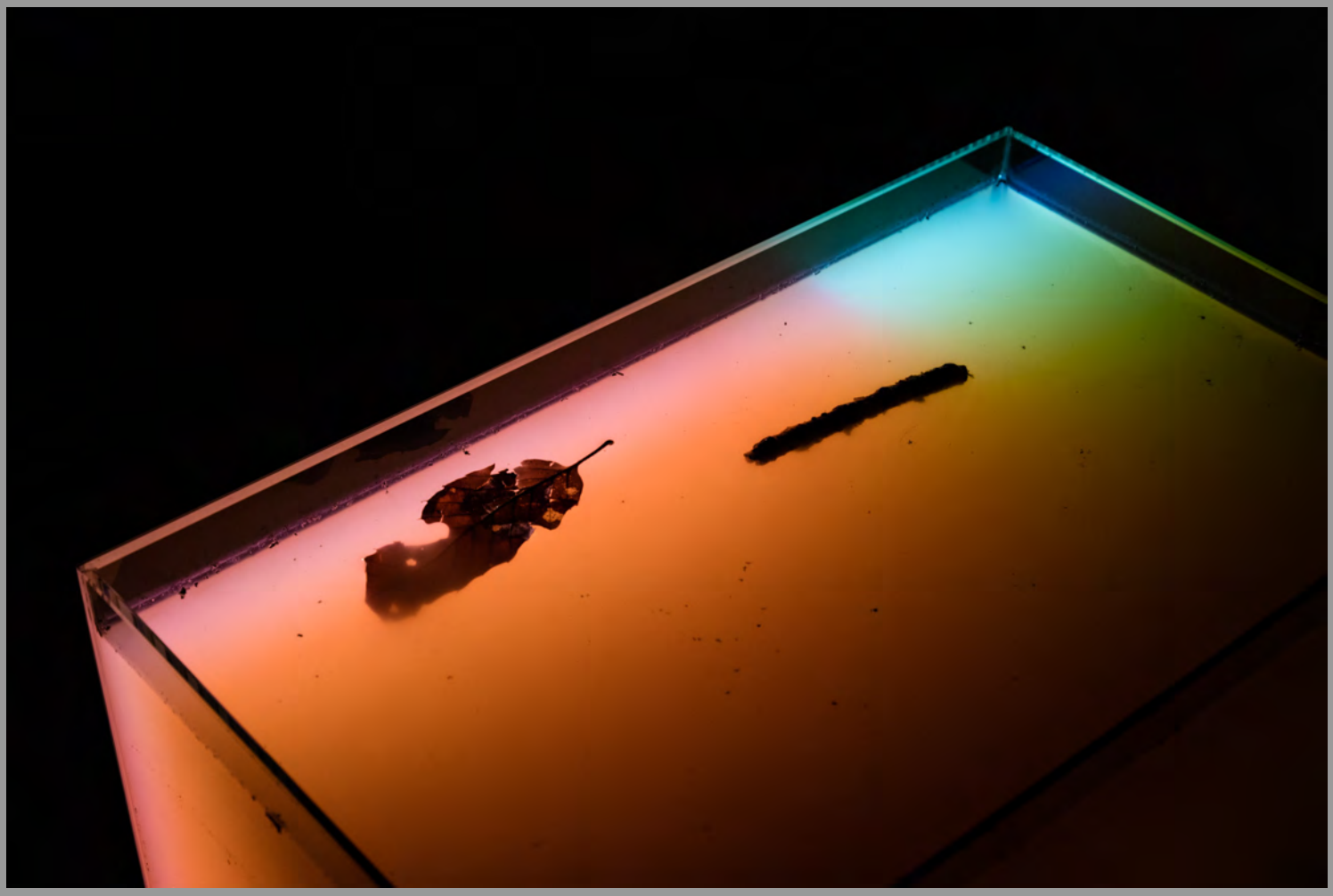
Gallery PARC
GRAND MARBLE

Press Release:2019.5.5

白いシロ

山本聖子

5.24Fri._6.9Sun.



きみの内に潜む色

2016
サイズ可変
素材：ガラス水槽、映像、泥、プロジェクター、他

本展の周知・広報にご協力頂ける際に、広報用画像をご用意しております。本リリース掲載画像からご希望の画像番号および掲載媒体情報を明記の上【info@galleryparc.com】迄ご連絡ください。尚、個人の鑑賞および利用を目的とする場合は、画像の貸出しはお断りしておりますのでご了承ください。

展覧会名　**白いシロ**

出展作家　**山本 聖子**
YAMAMOTO Seiko
https://www.seikoyamamoto.net

会　　期　2019年5月24日［金］— 6月9日［日］　11:00〜19:00　　月曜日休廊 / 金曜日のみ20:00まで

主　　催　ギャラリー・パルク

料　　金　無料

関連イベント　トークセッション　港 千尋 × 三木 学 × 山本聖子
「気配の色—私たちの社会はなに色か。」
2019年6月1日［土］　19:00〜21:00
［参加費］500円　［申込み］5月10日［金］よりメール(info@galleryparc.com)のみ受付。先着順・定員に達し次第締め切り。

会　　場　Gallery PARC［グランマーブル ギャラリー・パルク］　〒604-8165 京都府 京都市 中京区 烏帽子屋町 502 2F〜4F　MAP

アクセス　地下鉄烏丸線「四条」駅・阪急京都線「烏丸」駅22・24番出口より徒歩7分。地下鉄烏丸線・地下鉄東西線「烏丸御池」駅より徒歩7分。
室町通・六角通 北東角　室町通側入り口より2Fへ

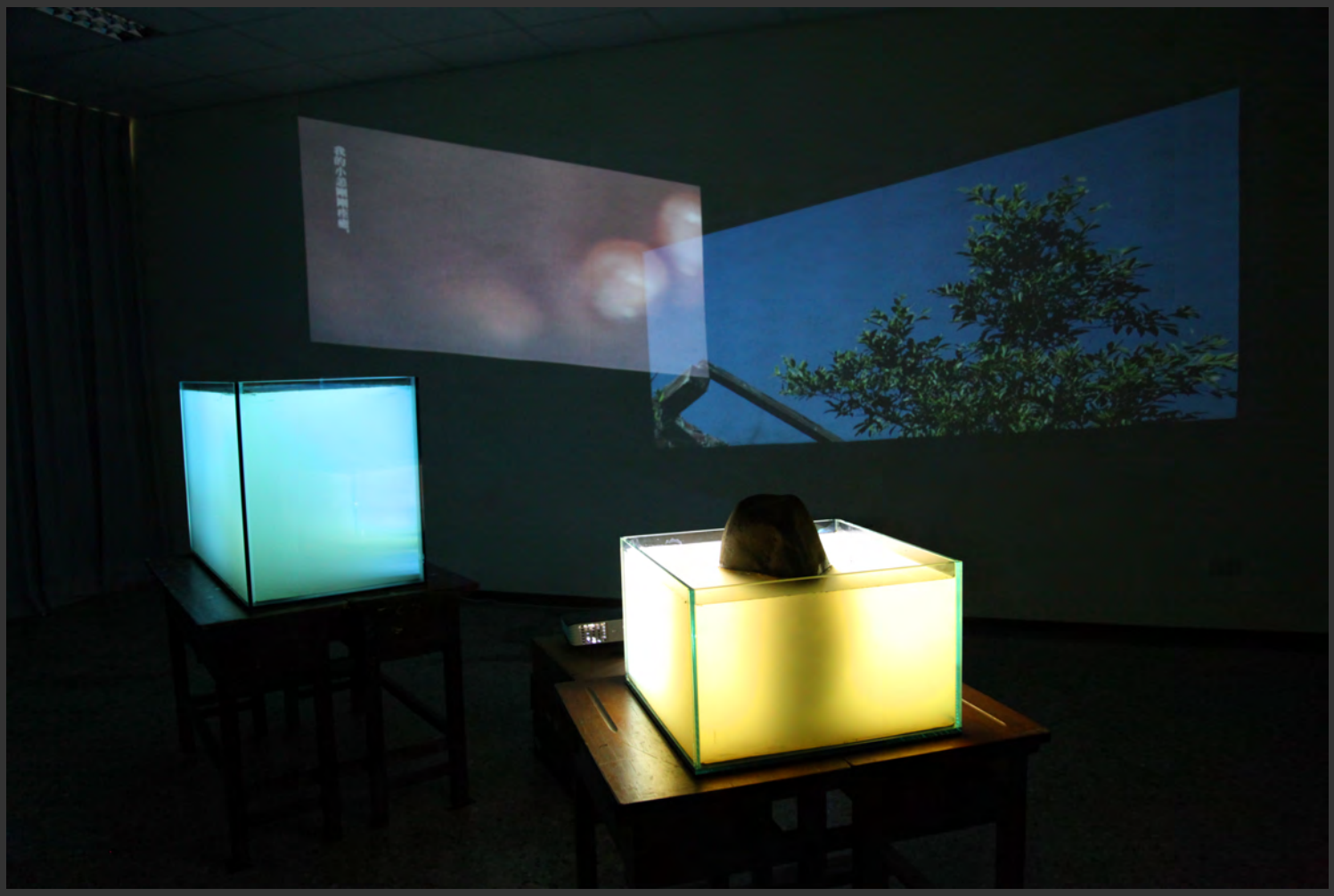
問い合わせ　Gallery PARC（正木・村田・岡田）　〒604-8165 京都府 京都市 中京区 烏帽子屋町 502 2F〜4F
TEL= 075-231-0706　FAX= 075-231-0703　MAIL= info@galleryparc.com　HP= www.galleryparc.com

Gallery PARC
GRAND MARBLE
Press Release:2019.5.5

白いシロ

山本聖子

5.24Fri._6.9Sun.



The Tree on the Layers

2019
サイズ可変
素材：ガラス水槽、映像、泥、岩、葉、枝、プロジェクター、オーディオ

C.V

山本聖子
1981年京都府生まれ　大阪府在住
2004年、大阪芸術大学芸術学部美術学科立体コース　卒業
2006年、京都造形芸術大学大学院芸術研究科芸術表現専攻修了
2013年5月～2014年4月、ポーラ美術振興財団在外研修員としてメキシコシティに滞在。

■個展
2017　Iron as a phantom/鉄の幽体性（POLA THE BEAUTY GINZA/東京）
2016　色を漕ぐ-Swimming in Colors-（GalleryPARC）
2015　白い暴力（1M1A-DEAR / メキシコシティー）
　ー　白い暴力と極彩色の闇（GalleryPARC）
2013　からっぽの森（ベラクルス州立ハラパ彫刻公園内ギャラリー / メキシコ）
　ー　frames of emptiness（見せる収蔵庫・メガアート倉庫 / 大阪）
2012　円の手ざわりはつるつるかざらざらか（ギャラリーPARC）
　ー　細かいことは気にせずに、ただそこに在るものを見つめてほしいのだ（中之島4117内ポストギャラリー / 大阪）
2010　the empty view　画廊からの発言・新世代への視点2010企画（コバヤシ画廊 / 東京）
2009　空の風景（コバヤシ画廊 / 東京）
2006　私とあなたは同時にそれを見た（ギャラリー16 / 京都）

Gallery PARC
GRAND MARBLE
Press Release:2019.5.5

白いシロ
山本聖子
5.24Fri._6.9Sun.

■おもなグループ展

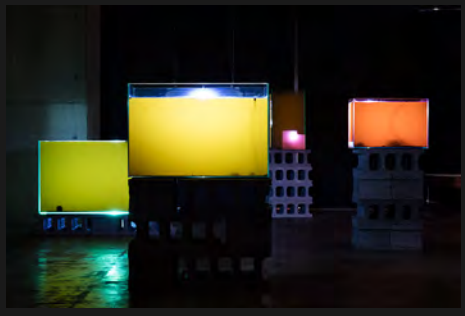
2019　麻豆糖業大地芸術祭（総爺芸文中心2019/台南、台湾）
2018　We/とうとぶ（銀座蔦屋書店、二子玉川蔦屋家電/東京）
—　木曽ペインティングス2018（長野県木曽郡宮ノ越宿・福島宿・上松宿）
2016　Assembridge NAGOYA 現代美術展「パノラマ庭園ー動的生態系にしるすー」（Minatomachi　POTLUCK　BUILDING　ほか名古屋港エリア内）
—　ポーラミュージアム アネックス展2016ー映像と動勢ー（ポーラアネックスミュージアム、東京）
2015　Message2015（コバヤシ画廊/東京）
＊2012年を除き2009年以降毎年参加
2014　レジデンスプログラム成果発表展（DORDTYART/ドルトレヒト、オランダ）
—　1：はかない断片（ギャラリーdos puntos/メキシコ）
2013　ボーダーレスのゆくえ（なんばパークス内ホール/大阪）
2012　二次元と三次元のはざま（artspace ARTZONE/京都）
—　六本木アートナイト・東京ミッドタウンプログラム ストリートミュージアム（東京ミッドタウン内/東京）
—　日常の冒険ー現代の若手作家たちー（札幌大通駅地下ギャラリー500m美術館/北海道）
—　六甲ミーツ・アート芸術散歩2012（六甲高山植物園）
—　第1回コンテンポラリーアート ハラパ国際会議関連企画展覧会「空虚と風景」（ベラクルス州立大学付属AP ギャラリー/ハラパ、メキシコ）
2011　現代美術の展望「VOCA展2011-新しい平面の作家たち-」（上野の森美術館/東京）
—　六甲ミーツ・アート芸術散歩2011（六甲高山植物園）
—　Tokyo Midtown Award 2011（東京ミッドタウン）
2010　吃驚（国際芸術センター青森/青森）
2009　Polyphonic.（KCPF ギャラリー/韓国・ソウル）
2007　Xhibition（ギャラリーRAKU/京都）
2006　京都造形芸術大学卒業制作展（京都市美術館/京都）
2004　大阪芸術大学卒業制作選抜展
2003　羽孵展（大阪芸術大学内/大阪）

■上映
2014　Between You & Me”プロジェクト（ブレダ/オランダ）

■受賞
2011　六甲ミーツ・アート芸術散歩2011　公募大賞
—　Tokyo Midtown Award 2011アートコンペグランプリ
2004　学長賞（大阪芸術大学卒業制作展）

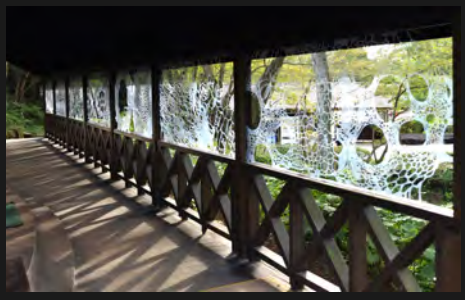
■レジデンス、奨学金など
2015　朝日新聞文化財団助成　個展
2014　DORDTYART インターナショナルレジデンスプログラムでドルトレヒト（オランダ）に滞在。
2013　ポーラ美術振興財団在外研修員としてメキシコシティに滞在。
2014　朝日新聞文化財団助成
2010　国際芸術センター青森　秋AIR プログラム

■パブリックコレクション
千島土地株式会社
株式会社グランマーブル



個展　色を漕ぐ-Swimming in Colors-　会場風景
2016
GalleryPARC

個展　白い暴力と極彩色の闇　会場風景
2014
GalleryPARC



ただ、山である。
2011　112㎝×1664㎝
ビニールシート、六甲高山植物園の風景
「六甲ミーツ・アート芸術散歩2011」展示風景

frames of emptiness
2011　105cm×105㎝×180cm
物件広告の間取り図、ラミネート、鏡、アクリル、木、ミクストメディア
メガアート倉庫（大阪）での展示(2013)

白い心臓

山本聖子